

研究課題：当院における経臍腹腔鏡補助下虫垂切除術の成績と困難因子の検討

1. 研究の目的

当院において急性虫垂炎に対しては侵襲性・整容性の観点から、単孔式の経臍腹腔鏡補助下虫垂切除術(transumbilical laparoscopic-assisted appendectomy:TULAA)を第一選択としています。虫垂の授動、根部処理に難渋せず比較的容易に完遂する症例を多く経験する一方、ポート追加や体腔内での根部処理を要する症例も経験します。今回 TULAA をすでに行った症例のカルテから手術成績などのデータを調査し、当院における TULAA の成績とその困難因子について検討しました。

2. 研究の方法

2018 年 1 月から 2020 年 12 月までに急性虫垂炎に対して TULAA を施行した患者様が対象となります。

診療録から以下の項目に関するデータを集積して後方視的に調査し、虫垂切除群と非切除群で比較検討します。

性別、年齢、身長、体重、BMI、CRP 値、Alvarado score、Pediatric appendicitis score、エコー所見、発症から手術までの日数、CT での臍虫垂根部間距離、手術時間、出血量、術後経口摂取再開までの日数、術後 full feeding までの日数、術後在院日数、術後病理診断、術後合併症

3. 研究期間

2022 年 7 月の倫理委員会で承認されてからカルテを調べたあと、解析を行い、結果をまとめます。2022 年 8 月 31 日に研究終了とします。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

2「研究の方法」に記載の通り

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

外部への資料・情報の提供はありません。

研究成果は学会および学術雑誌に発表予定です。また、埼玉県立小児医療センターホームページにおいて情報公開を行います。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：外科 科長兼副部長 川嶋寛

研究分担者：外科 医員 柳田佳嗣

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない
範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下
さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の
代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2022 年 8
月 31 日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生
じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）